

平成30年度研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	学習者の学びを促進させる教師の単元展開の実践的思考の研究		
プロジェクト期間	2018年度（平成30年度）		
申請代表者 (所属講座等)	坂井清隆 (教職実践講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法・取組実績の概要	<p>本研究は、単元計画と実際の展開との差異に着目し、教師自ら開発した単元の意味や特徴、子供の関心事やこだわりを適切に捉えて単元展開に生かそうとする実践上の意思決定の姿を明らかにすることを目的とする。上記の研究目的を達成するために、申請時には以下のような実施計画・方法をもって取り組むこととした。</p> <p>(1) D-OODA サイクルモデルの検討と教師の単元展開に総合的に働く諸能力の析出及び「単元の様相—解釈」の枠組みの提示</p> <p>(2) 研究協力者による実践及び「単元の様相—解釈」を行うための分析資料の作成</p> <p>(3) (2)の資料をもとにした研究協力者との検討会の実施、及び教師の実践的なD-OODA サイクルに関する考察と検討</p> <p>(1) D-OODA サイクルモデルに関して、教育実践への援用方法や留意点について明らかにした。次に、「単元の様相—解釈」の枠組みに関して、単元の構造的全体像を、【単元の流れ：計画と実際】【子供の主な言動】【教師の主な働きかけ】の観点に基づいて図化（＝様相）し、単元が生成・発展していく関係性の分析・検討（解釈）の枠組みとして設定した。</p> <p>(2) に関しては、申請者が指導している学校の教員（K教諭）に研究協力を依頼し、2回の実践を行い、「単元の様相—解釈」のための資料を作成した。</p> <p>(3) に関しては、研究協力者と共に授業実践に対して「単元の様相—解釈」を行い、その際のインタビューやリフレクションの記述の検討・考察を通して、単元展開の改善に向かう実践的な「D-OODA サイクル」の有り様を明らかにした。</p>		
研究成果の概要	<p>本研究では、以下のような研究成果が得られた。</p> <p>まず、「単元の様相—解釈」が、K教諭の単元展開改善に向かうD-OODA サイクルの状況（意思決定）を明らかにしたことである。具体的には、教師の指導（単元を貫く学習問題の設定）、子供理解（授業で表出した子供の関心事や興味と単元展開での生かし方）、継続した教材研究（特に単元展開の発展性）のそれぞれを関連させながら、新たな単元展開の方途を巡って思考していることがわかった。</p> <p>次に、単元展開におけるK教諭の意識は、具体的な展開のみならず、T教師自身の単元観・授業観（どのような授業をつなげていくか）・子供観（その子供の見方・考え方をどう生かすか）を捉え直していることが明らかになった。また、K教諭自身が、自らの単元観・授業観や子供観に常にアクセスすることで、単元が生成・発展され、子供自身の主体性や追究意欲が喚起されていくことがわかった。加えて、単元展開や授業の「事実」から、事前の計画（plan）にとらわれず、子供の観察（observe）から得られた知見は、自分の発見に基づいた知見として、実効性が伴った単元展開として生かされていくことも明らかになった。この意味においては、具体的な単元展開の生成・発展する方途を見出すとともに、K教諭自身の教育観・授業観の捉え直しによって、さらなる自己形成を促進させつつあることがわかった。</p> <p>最後に、自治体の教員育成指標を踏まえた研修システムに対する示唆を得た。キャリアステージの「基礎期」において、単元展開を組み込んだ研修等を実施することで、単なる教育技術の向上に留まらず、「学び続ける教師」としての信念や教育観・子供観の深化・更新が促進されていくことが期待できる。</p>		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について〔 <input type="checkbox"/> （該当事項）にチェック方願います。〕			
外部資金獲得申請（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法（予定）	<input checked="" type="checkbox"/> 学会（国内・国外）： <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等： <input type="checkbox"/> その他：